



IPOI「究極の臨床咬合を求めて！」

日時

平成23年6月26日(日) 9:30~17:00

場所

総評会館 大会議場 (東京都千代田区神田駿河台3-2-11)

定員

250名
(お申し込み順)

IPOI

講演内容

Chairman

座長：糸瀬 正通 先生(近未来オステオインプラント学会会長、奥羽大学 臨床教授、台北医科大学 臨床教授)

近年、矯正、補綴修復、インプラント治療後に生じるTMD症候群を訴える患者さんが増加している。今回、佐藤貞雄教授に咬合顎の課題を臨床に適用できる咬合の概念について解説して頂き、下川公一先生には、臨床的立場から咬合理論とその概念を解説して頂きます。また、高橋教授から咬合機能に関する解剖学的知識を3D画像等でより分かり易く解説して頂くジョイント講演会を企画しました。演者をはじめ会場の先生方とのディスカッションができればと考えていますので、奮ってご参加下さいませようお願い申し上げます。



Seminar 01

9:40-11:40

「臨床に適用するための咬合の概念」

佐藤 貞雄 先生(神奈川歯科大学、成長発達歯科学講座、歯科矯正学分野 神奈川歯科大学、学長)

歯科医療における咬合の重要性は言うまでもない。しかし、咬合という課題は、なお十分にコンセンサスの得られていないのも事実である。このことが現在の咬合学を混乱させ、あるいは咬合学の進歩を阻んでいる要因となっている。咬合学の課題を整理すると、①生理的な顎位の設定、②咬合高径の決定、③咬頭嵌合と咬合誘導路の設定となる。これらの課題を考える上で、咀嚼器官の機能をどう理解するかが基本的に重要となる。有機咬合(Organic Occlusion)の概念の基本は、咬合系に負荷のかかる機能時における相互保護(Mutually Protection)の概念である。また、相互保護の概念が必要なのは、咀嚼というよりもブラキシズムのような強力な機能を想定した場合である。とくに睡眠ブラキシズムのコントロールは、現代の咬合学の最重要課題である。咬合学は、かつての機械論的な概念から、より生理的な概念に変化しなければならない。本講演ではこのような観点から、臨床に適用できる咬合の概念について解説する。



Seminar 02

12:30-14:30

「私の咬合治療の進め方とその概念」下川 公一 先生(九州歯科大学 臨床教授)

咬合治療を進めるにあたっては、顎位・アンテリアガイダンス・チューイングサイクル・安静位空隙・パラファンクションについて、それぞれの概念と相関関係を整理しておかなくてはならない。審美と機能を兼ね備え、生理的に安定した咬合としてのメルクマールを症例を通して説明してみたい。



Seminar 03

14:40-15:40

「咬合に関する解剖学的知識」高橋 常男 先生(神奈川歯科大学 教授)

顎口腔系の機能因子として咀嚼・嚥下・発音・表情があるが、本機能は、歯、上下顎骨、舌骨、顎関節とこれに付着する筋、口唇、頬、舌、唾液腺など構成単位(各器官)とこれに関与する神経系の調和によって営まれている。そしてこれらの機能因子は同時に咬合機能に直結しているの、構成単位のどの一つの障害も顎口腔全体の異常、すなわち咬合異常としてその影響が発現すると考えられる。本講演会では、咬合に関する臨床解剖的知識について、頭蓋顎顔面的視点から人体標本や得られたCT3次元画像を用いながら解説を行う。



15:50-17:00 Discussion

参加費

学会会員：歯科医師10,000円 会員スタッフ5,000円／一般：歯科医師20,000円 一般スタッフ10,000円

振込先

西日本シティ銀行 赤坂門支店(普通)1709430 『近未来オステオインプラント学会』

※お申し込み後のご返金は致しかねますのでご了承ください。 ※お申し込みの際は、貴院名と個人名を併記してください。

※銀行より発行されますお振込みの控えをもって近未来オステオインプラント学会の領収書とさせていただきます。

※会場の都合上、定員になり次第受付を終了させていただきます。

主催 近未来オステオインプラント学会

キリトリ

IPOI「究極の臨床咬合を求めて！」参加申込書

近未来オステオインプラント学会事務局

FAX.092-404-9082

□ 会員 □ 一般	フリガナ (ローマ字)		フリガナ	
	ご氏名		貴医院名	
ご住所	〒			
TEL			E-mail	
FAX				

会費 円は、 月 日 (振り込み予定・振り込みました)